

令和7年度全国学力・学習状況調査 斜里町の状況及び今後の改善方策

小学校数:3校、児童数:85人 中学校数:2校、生徒数:68人

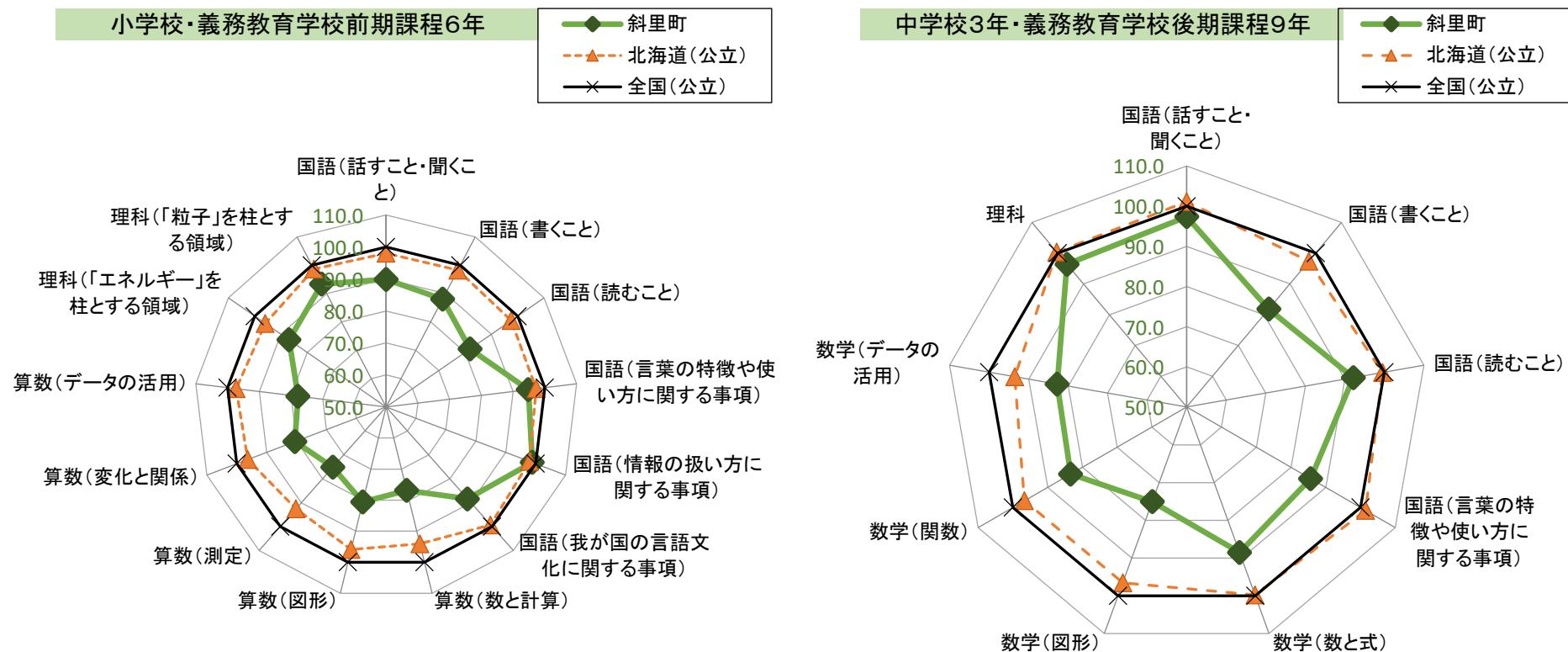
○ 教科に関する調査の状況

【レーダーチャート】

・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び斜里町の状況をレーダーチャートで示したもの（斜里町の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

・中学校理科の結果は領域別に分けずに全国を100とした場合の全道及び斜里町の状況をレーダーチャートで示したもの

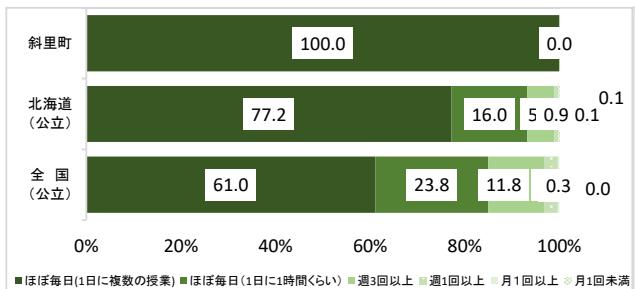
（斜里町の平均IRTスコア÷全国（公立）の平均IRTスコア×100で算出）



○ 質問調査の状況

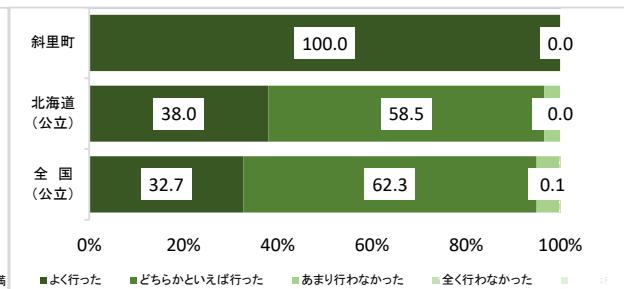
小学校・義務教育学校前期課程 <学校質問>

児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか



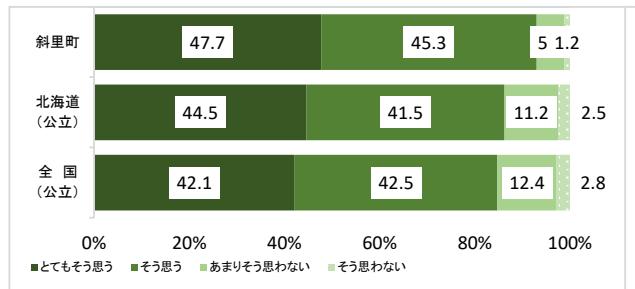
中学校・義務教育学校後期課程 <学校質問>

生徒が、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか



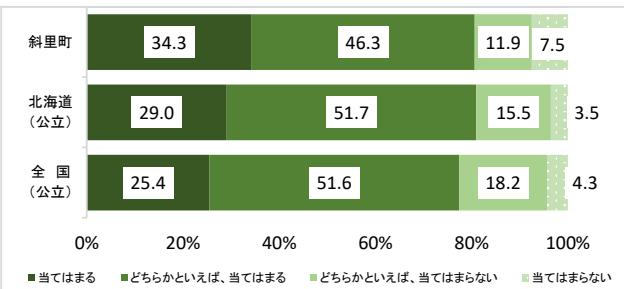
小学校・義務教育学校前期課程 <児童質問>

ICT機器を活用することで、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなりましたか



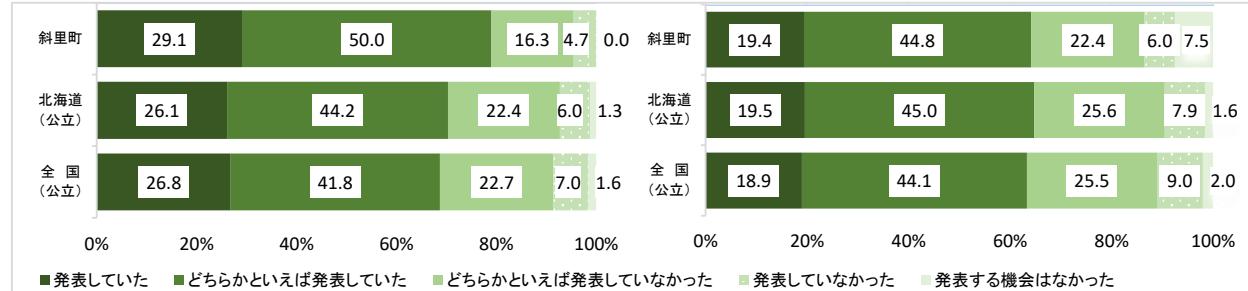
中学校・義務教育学校後期課程 <生徒質問>

国語の授業の内容はよく分かりますか



小学校・義務教育学校前期課程 <児童質問>

自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



○ 調査結果の分析

- 小学校・義務教育学校前期課程において、児童一人一人に配備されたICT機器をほぼ毎日活用しており、特に自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、ICT機器をほぼ毎日使用し、また、学級でも話し合い活動をよくしたことにより、友達と考えを共有したり比べたりすることができていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
- 中学校・義務教育学校後期課程において、生徒一人一人に配備されたICT機器をほぼ毎日活用しながら、生徒が他者と話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりする学びや、特に国語では自分の学習の改善点に向き合ったことにより、国語の授業の内容がよく分かると回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。
- 町内の学校が統一して「書く力の育成」を目指した授業改善を図ったことにより、考えを発表する機会では、自分の考えが伝わるよう、工夫して発表していたと回答した児童生徒の割合が、全国を上回ったと考えられる。

○ 今後の改善方策

- 「授業時間以外の学習時間」に課題が見られることから、授業と密接に関連させたり、ICT端末を効果的に活用したりして、学校・家庭・地域が一体となって学習習慣の定着を図る。
- 児童生徒一人一人の資質能力を育むために、児童生徒の学習状況に応じた指導の工夫改善を図る。
- 算数・数学への興味・関心に課題が見られることから、自分の考えを説明したり、学習したことを普段の生活で生かしたりする活動の充実を図る。